

機関番号：34432

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010 年度

課題番号：21792352

研究課題名（和文）保健指導技術実践のための SP を導入した OSCE 教育プログラム

研究課題名（英文）OSCE educational program that introduces SP for health guidance technology practice

研究代表者

森山 浩司 (MORIYAMA KOJI)

太成学院大学・看護学部・准教授

研究者番号：60364171

研究成果の概要（和文）：

1) SP (模擬患者<住民>) の教育プログラムの開発と実践：模擬患者の養成を行い、臨地の場で学生が想起できる環境について高められるように模擬患者の教育実践・プログラム作成を行った。内容は、模擬患者とは、自分を知る、イメージ作り、演じてみる、伝えてみる、振り返りとまとめについてのテーマで実施した。

2) OSCE (保健指導技術) の構成 (方法の開発)：保健指導技術の中より臨地で活用度の高い技術を考慮し、評価対象技術の選定を行った。実際に保健指導技術力、保健指導における判断力、コミュニケーション力、ケアリングなどの項目が選定された。

3) OSCE の教育評価：学習者が模擬患者に保健指導を行い、教育プログラムの評価の検証を行う。教育プログラムの評価については、評価の妥当性や信頼性を上げるために、本来評価すべき点を適切にはかっているのかどうかの評価項目の検討、および評価者によって正確に、さらに客観的に評価がなされているかどうかの検討を行った。

4) OSCE ガイドラインの作成：学生用 OSCE ガイドラインと評価者用 OSCE ガイドライン、教員用 OSCE ガイドラインの作成を行った。学生用 OSCE ガイドラインの項目には、OSCE についての説明、スケジュール、実際の流れなどを含めていて、学生が OSCE を受ける目的や意味を理解できる内容とした。評価者用 OSCE ガイドラインには、学生用 OSCE ガイドラインの項目と役割分担とその内容、フィードバックの目的や方法、評価方法について加えたものを作成した。

研究成果の概要（英文）：

1) SP (The imitation patient<resident>) of doing the development and practice of the education program: The training of the imitation patient I did the education program preparation of the imitation patient as it is raised about the environment where the student can recollect in the place of the ground. The contents the imitation patient knew and, tried to play image make, and carried out it with the theme with regard to the summary that, try to convey and look back the self. I did the selection of evaluation object technology in consideration of the high technology of life expense, in the ground more the constitution (the development of the method) of OSCE (health guidance technology): the middle of health guidance technology.

2) Actually the item such as the judgment, communication power, the care ring in the health guidance technology power, health guidance were selected. The educational assessment of OSCE: the study person of then.

3) Give health guidance to the imitation patient and do the inspection of the evaluation of the education program. I did examination about whether or not evaluation is done precisely and objectively by the examination and also evaluation person of the evaluation item about whether or not that be measuring the point that I should evaluate basically appropriately, to raise the appropriateness and reliability of evaluation about the evaluation of the education program. I did the preparation of the OSCE guideline: The preparation of the OSCE guidelines for the OSCE guidelines, teachers for the OSCE guidelines and evaluation person for the students.

4) It made the contents that the student is able to understand the purpose and meaning that are including the explanation, schedules, actual flow etc. With regard to OSCE to, the item of the OSCE guideline for the student and receive OSCE. I made the one that I added to, the OSCE guideline for the evaluation person about the purpose and method, valuation methods of the item and role share and the contents, feed backs of the OSCE guideline for the student.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：保健指導、OSCE、SP、教育プログラム、特定保健指導

1. 研究開始当初の背景

OSCE について：実技試験は、その測定の客観性 (objective) を保つこと、つまりどの評価者も同じ基準で測定し評価者の主観を排除することが難しいと考えられてきた。しかし客観性の問題点を改良し 1975 年に Harden RM らが OSCE(objective structured clinical examination) <客観的臨床能力試験^{日本医学教育学会訳}>を公表した。すでに医学界では OSCE は世界的に普及し、日本でもコア・カリキュラムの共用試験 OSCE がすべての医学部・医科大学で実施されている。カナダや米国では医師国家試験に OSCE を導入してい

る(大滝、2006)。日本での OSCE に関する論文(症例、議事録除く)は 400 本程度存在する。同じく看護学分野においては 42 本存在するが、地域看護学や保健指導分野での研究論文は存在しない状況である。

SP(模擬患者<住民>)について：SP が最初に文献で報告されたのは 1964 年(Barrows HS)であり、欧米では既に 40 年以上前から SP 参加型の学習が行われている。SP が欧米の医学教育で早期から発展した背景には、能力の未熟な学生や研修生が本物の患者を練習台にしながら学ぶことが倫理的に問題になったことが関係していた(藤崎、1996)。1990

年代後半になり、医師の患者とのコミュニケーション能力の重要性が指摘される中で、その有用性が次第に注目を集め、特に医療面接を学ぶ場に SP が導入されるようになった(藤崎、2002)。SP 参加型の学習が効果的なのは医師養成に限ったことではない。専門職者によるコミュニケーションや諸行為の練習相手を模擬的に演じ、さらに評価やフィードバックもできるように訓練を受けた人として、看護学など多くの分野教育でも SP 参加型の学習が行われはじめている(大滝、2007)。保健指導技術について：保健師助産師看護師法の 29 条では保健師の行う保健指導について保健指導は名称独占とあるが、一方では健康増進法(2003 年施行)第 17 条には保健師以外にも医師をはじめ多くの職種の行う業務であることも定められている。医師を中心とした医療面接に関する論文は国内においてすでに 5000 を越す研究論文がある。保健師の保健指導技術については、10 程度の研究論文が存在するが教育プログラムや技術を評価した研究は存在しない。

2. 研究の目的

OSCE(保健指導技術)の構成(方法の開発)

・保健指導技術の中より臨地で活用度の高い技術を考慮し、評価対象技術の選定を行う。保健師教育課程の違いによる学習者(専門学校、短期大学専攻科、4 年生大学)に配慮し、状況に合わせたアウトカムをみる OSCE の作成を行う。・SP(模擬患者<住民>)の教育プログラムの開発と実践模擬患者の養成を行い、臨地の場で学生が想起できる環境について高められるように模擬患者の教育実践・プログラム作成を行う。・OSCE の教育評価学習者が模擬患者に保健指導を行い、教育プログラムの評価を検証を行う。教育プログラムの評価については、評価の妥当性や信頼性を上げるために、本来評価すべき点を適切

にはかっているのかどうかの評価項目の検討、および評価者によって正確に、さらに客観的に評価がなされているかどうかを十分に検討する。

3. 研究の方法

模擬患者(住民)の養成には 15 名を対象に行い、最終的に 10 名が養成修了者であり、保健指導者については、5 名の保健師学生の協力を得て実施した。

4. 研究成果

1) SP(模擬患者<住民>)の教育プログラムの開発と実践：模擬患者の養成を行い、臨地の場で学生が想起できる環境について高められるように模擬患者の教育実践・プログラム作成を行った。内容は、模擬患者とは、自分を知る、イメージ作り、演じてみる、伝えてみる、振り返りとまとめについてのテーマで実施した。

OSCE(保健指導技術)の構成(方法の開発)：保健指導技術の中より臨地で活用度の高い技術を考慮し、評価対象技術の選定を行った。実際に保健指導技術力、保健指導における判断力、コミュニケーション力、ケアリングなどの項目が選定された。

OSCE の教育評価：学習者が模擬患者に保健指導を行い、教育プログラムの評価の検証を行う。教育プログラムの評価については、評価の妥当性や信頼性を上げるために、本来評価すべき点を適切にはかっているのかどうかの評価項目の検討、および評価者によって正確に、さらに客観的に評価がなされているかどうかの検討を行った。

OSCE ガイドラインの作成：学生用 OSCE ガイドラインと評価者用 OSCE ガイドライン、教員用 OSCE ガイドラインの作成を行った。学生用 OSCE ガイドラインの項目には、OSCE についての説明、スケジュール、実際の流れなどを含めていて、学生が OSCE を受ける目的や意味を理解できる内容とした。評価者用 OSCE ガイドラインには、学生用 OSCE ガイドラインの項目と役割分担とその内容、フィードバックの目的や方法、評価方法について加えたものを作成した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.tgu.ac.jp/faculty/faculty-teacher.php>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森山 浩司 (MORIYAMA KOJI)
太成学院大学・看護学部・准教授
研究者番号：60364171

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：